

わが社は発展途上国でのインフラ整備や保健医療施設の整備を重要な事業領域と位置付け、これまでスリランカ、アフガニスタン、エチオピア、ラオスなどでの政府開発援助（ODA）プロジェクトに関与してきた。2018年に着手したマグウェイ総合病院整備計画もその一つであり、本プロジェクトは同地域の医療サービス向上と住民の生活改善を目的として行われた。

マグウェイ周辺は当時、母子保健の指標が国内平均より悪く、特に乳幼児死亡率が高い地域であった。既存病院は老朽化・設備不備・病床不足・院内導線の不備などにより適切な医療提供が困難な状況にあり、救急部門や婦人科・産科などの医療機能の改善が求められていた。本プロジェクトは病院の施設

海外建設協会

プロジェクト便り

◆ミャンマー

マグウェイ総合病院整備計画

佐藤工業

人材育成と技術移転を重視

と機材の整備を通じて、救急対応、手術・出産関連機能、新生児ケアなど重点分野の改善を図り、地域住民に対する医療サービスの質向上を目指した。特に、災害時に重要な機能を果たす病院であることから、安全性や耐

震性などを考慮した設計方針が取られた。こうした設計・設備の導入は、地域の医療提供体制の強化に寄与することが期待される。

現地での施工を通じて、単に施設を造るにとどまらず、

現地の人材育成と技術移転を重視した点も本プロジェクトの重要な意義である。日本のODAが国際的に評価される理由は、高品質な成果だけでなく、現地の技術や技能の向上に寄与し人材や企業の育成を促す点にある。

本件でも、ミャンマー人スタッフや協力業者に対して安全管理、品質管理、クレーン計画、工程管理などの教育を実施し、計画・実施・チェックのサイクルを実践できる能力を養うことが目標とされた。

20年完成マグウェイ総合病院（空撮）



安全・品質・工程管理を定着



南西外観（夜間）

うになることを目指した。また、現地の限られた資源や調達環境を踏まえた運営上の工夫と経験は、参加した日本人職員にとっても貴重な学びとなった。プロジェクトを通じて得たノウハウは今後のODA事業にも生かされると期待される。さらに、日々の作業打ち合わせで計画と実施を確認し、現地スタッフの意見を取り入れる姿勢を徹底することで、現場での安全・品質・工程管理の定着を図った。

教育・研修は単なる日本式の押し付けではなく、現地の人々が自ら理解し考える力を得られるよう工夫して行われた。例えば工期や契約に対する意識の違いがあることを踏まえ、なぜ工期厳守や品質管理が重要かを具体的に説明し、現場での討議や提案を取り入れながら進めた。これによりローカルスタッフや協力業者が将来、自らプロジェクトを計画・管理・遂行できるようになることを目指した。

本プロジェクトは新型コロナウイルス感染症の影響で一時中断を余儀なくされたが、関係者の尽力により再開され、無事に引き渡しを迎えることができた。関係各位への謝意を表すとともに、本事業を通じて育成された人材が今後のミャンマー国内プロジェクトで「安全」「工程」「品質」のキーパーソンとして活躍することが期待されている。

（建築事業本部建築海外事業部担当部長・品川忠彦）

